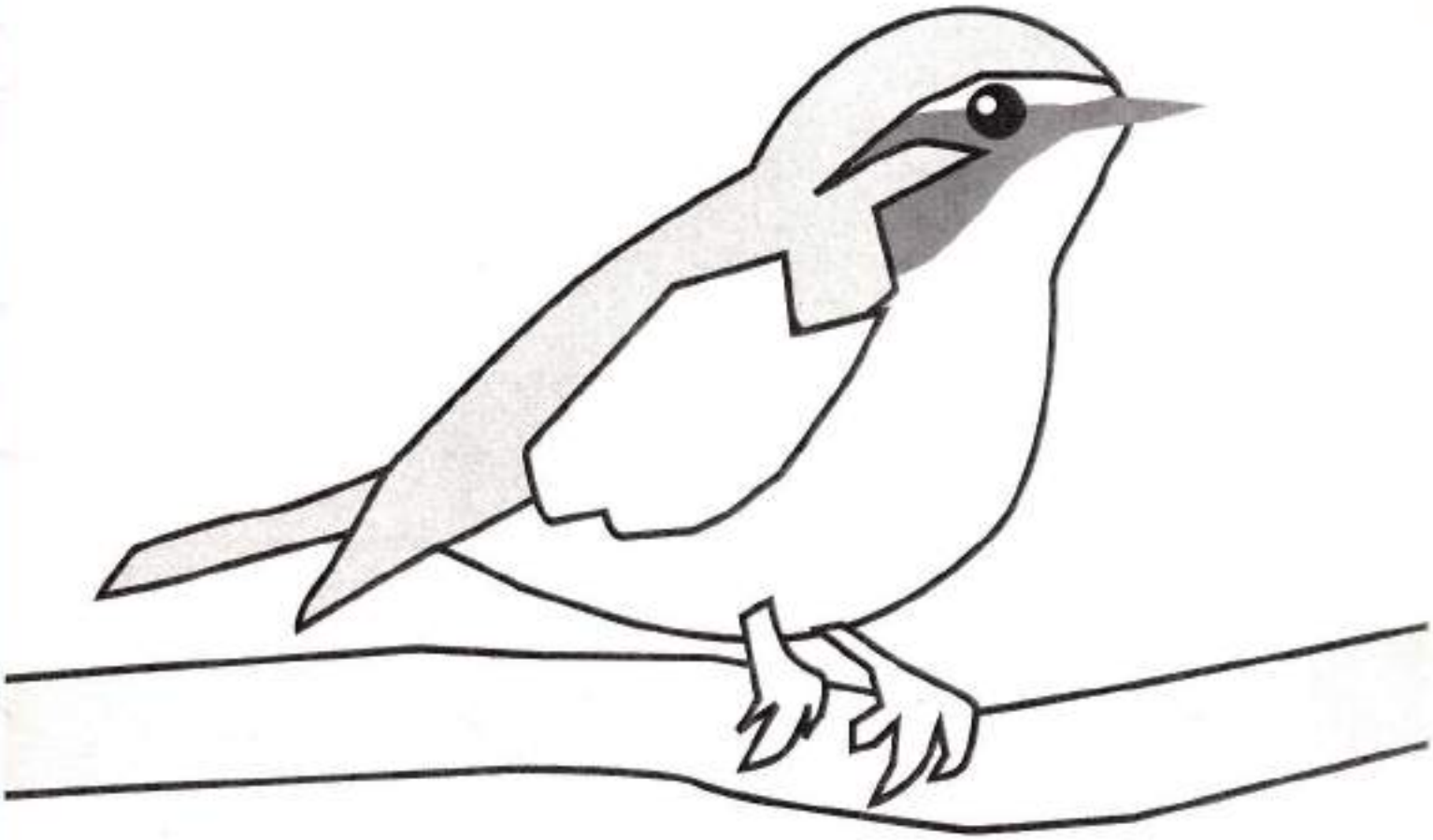
Interpreter Workshop

vol.40



府民の森パークレンジャー2011

Interpreter Workshop vol.40 発刊について

「Interpreter Workshop」は1994年にパークレンジャーの会報としてパークレンジャーの1期生によりvol.1が発刊されました。
多い時で年間4回発行し、ちょうど中間のvol.20時点で一時期2年近く途絶えたものの復刊して年間1～2回の発行を続けてきました。
レンジャーの親睦を図り、絆を深めるため、有志により継続してきましたが次年度からのパークレンジャー組織の変化にともない、今後今までのかたちでの「IPWS」の発行は出来ないと思われます。

そんな中でのvol.40の発刊となりました。

今回はフリーテーマで原稿を募集しましたので、どんな内容の記事が集まってきているのか、楽しみです。

2期　にしで　あきこ

パークレンジャーへの道

武田敏文

プロフェッショナル・ボランティアということ

皆さん、「プロボラ」と言う言葉をご存知でしょうか。ボランティアには「素人集団」のイメージがありますが、医師や教師、消防や法律家と言った分野の専門家がそれぞれに知識や技術、経験を生かしてボランティア活動を行っている人たちがいます。こうした存在はプロフェッショナル・ボランティア（通称:プロボラ）と呼ばれています。

府民の森パークレンジャーは色々な得意分野を持った人の集りですが、必ずしも専門家とは言えません。もともとプロを目指してできた集団ではないので今そんなことを言うのは無理なことですが、 しかし府民の森パークレンジャーが「NPO 法人日本パークレンジャー協会」となって、これから環境分野でNPO として世の中に何がしかの貢献をして行くためには、あらためてパークレンジャーの本来の役割を認識して専門家集団のようにプロボラに近づいたボランティア活動ができるようになりたいものです。そのためにはレンジャー一人ひとりが自分の進む方向を決め、日々研鑽して必要な知識や技術や経験を深めることが大切です。またその目標に向かって行くことが各個人の自己実現へ道でもあると思います。

パークレンジャーの役割とは

では、実際のパークレンジャーとはどんな仕事をしているのでしょうか。パークレンジャーは国立公園や希少野生生物の現地管理業務を行う環境省の自然保護官で、公園計画の作成や各種開発行為の審査・指導業務の他、園内での活動として次のような幅広い業務をしています。
（実際は自然保護官は会議や許認可指導などの室内業務に忙しく、自然保護地域の現場で行うパトロールや利用者指導等の業務に手が廻らないため、自然保護官の補佐としてアクティブレンジャーが国立公園等の現場管理業務をしている）

具体的業務

① 自然公園の維持管理
　＊ 自然公園内の巡視、公園内施設の維持管理
　＊ 歩道標識類の点検や簡易補修

② 自然環境の調査・保護
　＊ 動植物の調査、保護活動、自然再生、自然情報収集・データー化

③ 自然とのふれあいの事業推進
　＊ 自然観察会などの催しの企画と実施、関係団体・ボランティア団体との調整

④ 環境教育・普及啓発
　＊ 環境教育の実施など（体験キャンプ、小学校生活科・総合学習・観察会、自然体験活動提供）
　＊ 利用者へのマナーの指導など

⑤ 登山情報の提供など

これを見ると、私達がやっている活動は主に③の「自然とのふれあいの事業推進」活動で、あとは殆んどしていないと言うことに気がつきます。勿論私達は仕事としてパークレンジャーをやっている訳ではないので、それらは範囲外だと言う声も聞こえてきそうです。しかし私たちは NPO 法人として①、②、④の活動なども広く「自然の大切さを伝える」活動分野と捉えていますので、これからは皆さんにそれができるような能力を持ってもらいたいと思っています。では、これらのことができるようになるために何を学んで行けば良いのでしょうか。これまで府民森パークレンジャーには催し企画を中心とした基礎研修はありますが、更にスキルアップするために何を学ぶかは個人に任され体系的には示されて来ませんでした。以下は飽くまで参考ですが、私は次のページに示すような分野を学んで行くことにより実現に近づけるものだと思っています。近い将来 NPO としてもこれらを学べる独自の自然講座を持ちたいものだと

思いますが、シニア自然大学や自然保護協会などの講座、短期総合的に学びたければ森人塾に行くのも良いと思います。また自ら体系的に学びたいと言う人は森林インストラクターに挑戦するのも良いと思います。決して時間的にも費用的にも容易ではないかも知れません。しかし、皆さん学ぶことを止めないで下さい。時間はかかっても良いと思います。そしてこれからは本当に「パークレンジャー」と呼ぶに相応しい人が育つ、育てるNPOになりたいと思います。

学んでおきたい分野

① 自然の仕組み
* 森林の生態系/物質の循環
* 樹木
* 土壌・地質・保水
* 森林の動植物・昆虫・キノコ
* 生命の歴史
* 生物多様性

② 森林の働き
* 生態系サービス
* 自然の大切さとは

③ 森林の管理
* 日本の林業
* 森林の整備

④ 環境教育
* 自然の見方
* 自然観察
* インタープリテーション

⑤ 森林と民俗学(里山)

⑥ 森林の法令・自然保護

⑦ 安全と教育
* 安全管理
* 救急法
* 企画
* コミュニケーション

⑧ 野外活動
* 野外活動の考え方
* キャンピング
* ネイチャークラフト
* 野外ゲーム

風を集めよう　～私たち仲間に吹く風・社会に向かう風～

水谷　緑

『この団体をNPO法人にしようと考えています。』
昨年の必修研修（救急法：らくらくセンターハウス）で聞いた一言は衝撃でした。

その時、①法人に協力するか、②法人ができたら付いていくか、③辞めるか、と問われましたが、私はどの選択肢にも挙手することができませんでした。だって、そもそもNPO法人ってどういう法人なのか（会社法による法人ではないし）、資金面は大丈夫なのか（イベントの収入だってしれてるし）、何もかも雲を掴むような話だったのですから。

不安に感じながらも、法律関係の手続きに興味のある私はNPO法人の設立を0（ゼロ）から見ることが出来る機会に恵まれたことに、期待もしていました。でもやっぱり不安。

本屋でNPO関連の本を読んでも、やっぱり一番のネックである資金をどう賄うのか、組織の未来像も見えない．．．思い切って安田さんに聞いてみました。瓢箪山《養老乃瀧》で。

『思い切って』というのは、それまで研修チームの先輩方というと、ちょっと近寄り難くて（研修でのトラウマですね）、個人的な会話といっても挨拶や軽い冗談ぐらいしか交わしたことがなく、「物申す」なんて度胸は私にはありませんでした。

でも、聞いてみるものですね。私の質問を待ってくれていたかのように、今後のビジョンや資金の集め方、ボランティアとは、社会貢献とは、いろんな熱い思いを聞かせてくださいました。

私の好きな先輩レンジャーさん数名が「法人に協力する」と意思表示されていたのと、安田さんの「俺についてこい」に心が決まりました。『思い切って』良かった。設立のお手伝いをさせていただく端緒にもなりました。レンジャーになってまだ浅い私が事務局に入ったことを不思議に思っておられる方もいらっしゃるかと思いますが、こんな理由です。

それからは公社にも頻繁に出入りするようになり、冨田さんとの共同作業の合間に彼女のお仕事振りを観察したり（かなり煩雑で手間のかかる事務を大量に捌いているのに驚きました。だから、あまりイジメないでくださいね）、他の先輩方とも自由な意見交換ができるようになりました。

先日、ある18期の新レンジャーさんが今後の活動（自身の仕事と活動の調整・先輩レンジャーとの関わり方）について冨田さんに相談しているのを聞きながら「自分も初めから素直に自己開示していたら、もっと違っていたかもしれないな」と感じました。同期のレンジャーと集まっていては単なるサークル活動になり、たった一人で【volunteer】してきた思いを忘れて、辞めるのも時間の問題だったかもしれません。

もし、今の活動に悩んでいるのなら『思い切って』相談してみませんか？自分から行動を起こすことで、仲間に風を送ることができるのです。きっといい組織になります。

「こんなことがしたいけど、NPOなら出来るの？」とアイデアを温めているなら『思い切って』声にしてみませんか？力を合わせて実現させましょう。私達は「社会にいいことがしたい」同じ思いを持つ仲間ですから。みんなで社会にいい風を送っていきましょう。

「わたしの夢」　IPWS 最終号に寄せて

１３期　稲山耕史

ついに、パークレンジャーも終わりになる日がやってきました。５年前に活動に参加してから６年目になろうとしていましたが、ついにこの日がきてしまいました。

私が参加した当時は、主にインタープリテーションという活動がほとんどで、たまにクラフトというのが定番でした。もともと私は自然好きで、実際に森や木々に触れる活動がしたくて応募したのですが、少々様子が違っておりました。

しかし、先輩レンジャーのみなさんと活動していくなかで、様々なスキル、人とふれあうこと、人に伝えることの大切さを学ぶことができました。特に、老若男女の分け隔てのない、自然というものでつながっているこのレンジャーを心地良く感じてもいました。

私はいい時にいいものに出会えたと思います。例えば将来、私が老人となっても恐らく自然好きであることは間違いありません。それは自身の命の源でもあるからでしょう。でも、今の子供たちはどうでしょうか。お年寄りになって同窓会を開いたら、空調完備のコンクリートの建物の中でテレビゲーム大会等を行い、「安全っていいねぇ、ケガもしないし虫もいないし…。」なんて会話を交わしていることでしょう。たぶん…。

自然が好きといっても、森林整備の活動地から見る町の風景には美しさを感じます。高速道路さえ美しく見えるのは、それが日本各地の山々や自然とつながっているからでしょうか。でも、この風景はいつの時代まで続くのでしょうか。

太陽は輝きだしてから５０億年が経っているそうです。あと５０億年で寿命です。最期の姿は黒色矮星、燃えかすとなるようです。当然、地球も存在できません。また、太陽は晩年に膨張を重ねて、地球と火星の間の軌道あたりまで膨らむらしいのです。太陽に飲み込まれてしまうその前には、水分つまり海水はすべて蒸発します。また、地球に近い他の恒星が超新星爆発したらどうなるのでしょう。地球はその強烈な光線で昼夜の別はなくなり、何百万年か何千万年か後に来る衝撃波で大気はすべてはぎ取られてしまいます。

地球の自転速度は縄文や弥生時代と比べて遅くなっているようです。１万年後には、公転軌道にふらつきが生じて大寒波が来ます。いや、全地球凍結ということかもしれません。

「稲山さん、起きてくださいよっ。」「えっ…？。」あっ、そうか。今日はほしだ園地で整備活動をしてたんだっけ。活動地を渡る心地良い風を枕に「夢」を見ていたようです…。

この春からももちろん、自然と関わり続けて活動していきます。皆様、よろしく！！

今期を迎えるにあたって

むろいけチーム
１８期生　　中内　久司

１８期生は昨年１１月度に研修期間が終わり、正式にパークレンジャーとして任命を受けました。
各人はいろんな思いを胸に所属班に別れましたが、所属班の中で人生の先輩や、後輩の方々と接する事で色々な事が学べる喜びや、実際パークレンジャーとして各園地を訪れる方々とのふれあいを楽しんでいる事だと思います。
私も先日、パークレンジャーとして園地のイベントに参加させて頂きました。まずイベントに参加して頂く為に園地を訪れる方々への呼び込みから始まり、イベントに参加してよかったと言う思いを持って頂いた事や、自然を大切にしようという思いを感じて頂けた事は嬉しく思いました。イベント終了時に参加者から『今日はいい勉強をさせて頂きました。楽しかったです。有難うございました』と言う言葉も聞けてよかったと思いました。
私は普段から、休日にむろいけ園地を子供や嫁と一緒に訪れます。たまにはひとりで訪れる事もあります。その時はゆっくりと時間をかけて園地の自然を満喫しています。虫や魚、生き物が好きな私はその不思議さを感じながら園地の中を楽しんでいます。先日も大阪で３年ぶりの大雪が降った時（２月１２日）の事ですが、朝早くから園地を散策して普段は緑の多い景色が一面白い雪景色で静けさと寒さを感じながら耳をすましていました。辺りでは鳥の声と雪が解けて小川に流れる水の音を感じ、普段とは違った自然の不思議を感じる事が出来ました。私達はこの自然を大切にする事はもちろんですが、それを守っていく仲間を増やす為に、パークレンジャーとして自然の大切さや不思議さを参加者に伝え、それを考え行動していく為に活動していきたいと思います。

（星のﾌﾞﾗﾝｺ）

《 この一年のふりかえりと今後について 》

（ﾗｸｳｼｮｳ）

私自身この一年を振りかえるとまず『定年を数年後に控えたｻﾗﾘｰﾏﾝ生活』⇒『可愛い孫4人の遊び相手』⇒『趣味で続けていた山登りやﾊｲｷﾝｸﾞ活動』⇒『みどり公社HPを知る』⇒『PR養成基礎講座説明会出席』⇒『書類審査結果の通知』⇒『7ヶ月間PR養成基礎講座受講』⇒『PR養成基礎講座修了書授与』⇒『PRしての北部班及び森林整備班への配属』⇒『新人PRとしての園地活動etc』⇒《みどり公社府民の森指定管理者決定》⇒『NPO法人日本ﾊﾟｰｸﾚﾝｼﾞｬｰ協会入会申込み』⇒《NPO法人認証》⇒『里山保全部会議出席』⇒その他多く活動を経て現在に至り、この一年間は今までの人生であまり経験しなかった自然の中でのﾎﾞﾗﾝﾃｱ活動等多くの事に新たな心の扉を開く事出来、又自身の自己啓発も繰り返しながら日常生活にも新しい視点を加え、これからの第二の人生を迎えるに当たり、大きな節目となり、最高一年となりました。また同じくこの年は、みどり公社《府民の森指定管理者決定》及びﾊﾟｰｸﾚﾝｼﾞｬｰ組織《NPO法人認証》においても大きな節目の年となり、関係者の方々の準備や苦労も大変であったと推測すると共に、大変ご苦労様でした。ただ、これらは今までの皆さんのすばらしい活動の成果であり、社会的にも認知された結果だと理解し、大変嬉しく頼もしく感じます。いずれにしても『みどり公社』と『NPO法人日本ﾊﾟｰｸﾚﾝｼﾞｬｰ協会』とは運命共同体の関係を保ちながら、お互いが切磋琢磨しながら成長出来る法人組織になってほしいし、なる様に私自身も微力ながらそれらに少しでも寄与出来ればこれからの第二の人生においても『最高の生きがい』なると確信します。この様な年に皆さんの仲間入り出来た事は、今後人生においても運命的な出会いであったと確信する反面、私自身ﾊﾟｰｸﾚﾝｼﾞｬｰとしての責任も痛感していますが、大いにやりがえも芽生えてきました。

今後は『NPO法人日本ﾊﾟｰｸﾚﾝｼﾞｬｰ協会』の活動目的・活動理念・活動目標を再度認識しながら、自ら率先して一つでも多くの園地活動をしながら、先輩ﾊﾟｰｸﾚﾝｼﾞｬｰの方々のよい所もどんどん吸収し、私自身も活動に必要なｽｷﾙをﾚﾍﾞﾙｱｯﾌﾟし、自分なりのｽﾀｲﾙも築きながら、まだまだ無限にある『自然の不思議さ・すばらしさ・美しさ・喜び・恩恵・偉大さ等』素材とし、一人でも多くのﾋﾞｼﾞﾀｰの皆さんに自ら直接自然に触れながら体験していただき、自然に親しむことを通じて、自然に対する理解を深めながら、自然を大切にする心を伝えていきます。最後に、みどり公社の関係者の方々・先輩ﾊﾟｰｸﾚﾝｼﾞｬｰの方々及び18期生の素晴らしい仲間達を始め、この一年間に出会った全ての人達、更に『森の大自然』にも感謝すると共に全ての出会いに対して、心から『ありがとう』と伝えたいです。　以　上

18期生　松村　吉恭

（ｱｼﾞｻｲ）

（ﾀﾗﾉﾒ）

（ｸｻｷﾞ）

（ｺﾅﾗ）

（ｱｶﾒｶﾞｼﾜ）

クイズの神様

ちはや班　　高田敬裕

パークレンジャー活動を始めて３年になる。きっかけは、区役所でたまたま手に取った募集チラシ。それまでボランティア経験はなく、何かやってみたいと言う思いがあった。また自然に興味があると言うこともあり、自分とこの活動との接点を感じて応募した。

募集定員の２倍以上の応募があったと思うが、そんな中で運よく採用された。ボランティア経験がなく、自然についての知識もほとんど無い私が採用されたのは意外だった。

約半年間に渡る研修を受けた後、研修の仕上げイベントを迎えた。研修生は２班に別れ、私が入った班は「どんぐりを使ったクラフト」をすることになった。都合で１回目の打ち合わせ会議には参加できず、初めて参加した２回目の会議ではすでに役割分担がある程度決まっており、私はクイズを担当することになった。

自分なりに、どんぐりについていろいろ調べて、自信を持って３回目の会議で披露したところ、クイズのやり方などについて他のメンバーからダメ出しを食らった。「クイズをやるなら、どんぐりについては何を聞かれても答えられるようにしておかなければダメだ」とも言われた。手厳しい言葉にカチンときて、「ヨッシャ、やったるで～」とスイッチが入った。

それから本番まで、どんぐりについて徹底的に調べた。それまでの研修で学んだことを振り返り、どうすれば自然に興味を持ってもらえるのか、自然の大切さを伝えることができるのかを考え必死でクイズを作った。

そして、迎えたほしだ園地でのイベント本番は、天気にも恵まれ 100 名を超す参加者で賑わった。クイズは何度も何度も行い、声がかれて、クイズを書いた模造紙はよれよれになり、終了後はクタクタになった。結果的には大盛況で、イベント後のふりかえりでも、研修チームから高評価をいただいた。

その後、ちはや班に所属し３年間活動させてもらった。何の知識もない自分に何ができるのか、不安を感じながらスタートしたが、良い仲間に恵まれ、いろいろと教わりながら少しずつ歩んでいる。これまで、班のイベントをはじめ、レンジャー祭りなどでも数々のクイズを作ってきた。その度に「徹底的に調べる」ということが活動の基本となっている。今では、ちはや班の飲み会では〝クイズ王〟と呼ばれ、裏には〝星の王子様〟？と呼ばれるようになった。(^_^;)

パークレンジャー活動の目的である「自然の大切さを伝える」までには至っていないかもしれないが、自然に興味を持ってもらうことは少しずつできている実感がある。

今にして思えば、あの時のダメ出しがなかったら、こんな感覚は味わえなかっただろうし、今までレンジャー活動を続けてなかったかもしれない。本当に良いアドバイスをいただけたと感謝している。

今後も、活動できる範囲を少しずつ広げて、〝クイズの神様〟を目指したい。

パークレンジャーの研修を終えて、1年が経ちました。

自然と私は、不思議な赤い糸に結ばれて今ここにいます。

先輩レンジャー皆さんのおかげで、本気に、前向きに自然の尊さを学ぶことができました。心より感謝しています。ありがとうございます。

第二の人生の新たな歩みを、これほどまでに誇らしく思えるなんて、
なんて幸せなことでしょうか。

小さな種、一粒一粒の生命力、花の中で起きている神秘な喜び、
小さないきものの エネルギーの爆発……

自然の中のすべてのものが、きちんと自然の摂理の元で、日々刻々とそのいき様が営まれていく。

本当は。私たちが自然を守る　なんてことばは、間違っているのかもしれません。

"私たちが、自然に守られて、今日も生きていける"

自然のおかげで、息をして、食を摂り、大地の上に立って歩ける。
このありがたさと、素晴らしさに、ただ、ただ感謝して、
次の世代に、この喜びを伝えていく。

そのメッセンジャーに選ばれた事が、今までの人生の中で一番自慢できることです。
その仲間に出逢えた事、語り合える事、互いに信じ合って進んでいける事。

いつも自然の中で、森の中で、木々の根もとで。

難かしいことは　何一つなく
支え合う喜びが、レンジャーたちの笑い声が響き合い
森をもっと魅了してキラキラ輝やかせて行く。

本当に　心から　ありがとう　し・ぜ・ん　そして　な・か・ま。

17期生　中野寿子

雪景色

ちはや班　万力　信秀

2月最初の日曜日、私達の活動拠点である「ちはや園地」では「金剛山　樹氷まつり」が開催され、多くの登山客で賑わっておりました。

残念ながらというか当日はとても良いお天気で、肝心の「樹氷」はおろか雪もかなり融けてしまっていて、期待した程の雪景色が見られませんでした。

それでも大阪府下であれだけ雪のある場所も他には無いのでしょう。大人も子供達も僅かに残った雪で平地では中々楽しめない「雪遊び」に興じておりました。私達のイベント（雪の結晶クラフト）も盛況で、充実の1日でした。

これまでの生活の中で「雪」を見る機会の少なかった私は、大人になった今でも「雪」を見るとワクワクしてしまいます。

さて、先週3連休の初日は関西でも稀に見る「大雪」でありました。

「こんな日は金剛山もさぞやキレイな雪景色…」と思い、「大雪」にも関わらず、出掛ける支度をする始末、事故でも起こしたらどうする積もりだったのか？

でも、ジッとしていられないんですよね！もう、気持ちが落ち着かない。

そんな訳で車を飛ばし一路「金剛山」へ！　車中でラジオを付け交通情報のチェックと思いきや、なんと奈良県は明日香村で行われる公開イベントの案内が聞こえる。毎年開催されているイベントで今年が30回目、明日香村の史跡を学者の解説をラジオで聞きながら約10kmのコースを歩くらしい…受付は本日の午前9時からとか。時計を見ると8時前、南阪奈道に乗ったら間に合うか？

そんな事で急遽「行き先変更」。雪の金剛山はまだチャンスがあるけれど、「雪の明日香村」は滅多に観る事は出来ないので…スピードに注意しながら羽曳野ICから「南阪奈道」へ，路面は既にシャーベット状態で生きた心地がしない…途中は右翼の街宣車に煽られながら、やっとの思いで「明日香村」へ到着。

集合場所の「明日香小学校」には大雪にも関わらず、大勢の参加者で溢れていました。後で聞くところによると、参加者数1万2千人とか…　言っちゃあ何だけど、「皆、モノ好きだねぇ…　あっ、ボクもか！」

会場内には協賛企業のブースが多数在り、イベントチラシや使い捨てカイロの配布をしていたり、食べ物やグッズの販売などがあり開始前から大変盛り上がっていましたが、何より私が心惹かれたのは初めて見る「明日香の雪景色」。

少年時代を奈良県で過ごした私にとって、見慣れた明日香村の風景が雪に彩られているなんて「感動」そのものでした。　何処を歩いていても、まるで「別世界」で幻想的な風景「万葉の人々もこの雪景色を見ていたのかなぁ？」と、そんな不思議な気持ちが心の中に広がりました。

約10kmのコースを歩き、明日香小学校へ到着。　フィナーレは16時だったのですが、会場内には多くの参加者が残っており、なんだか名残り惜しい感じがしましたねぇ。　「もう少しこの風景を眺めていたい…」

「明日香の雪景色」今度はいつ見られるんだろうか？

そんな思いを胸にしまいつつ、明日香の地を後にしました。

“大地の窓“を体験して・・・・

１８期　　増井　　雅子

２０１１年２月５日（土）、立春を過ぎ 風もない暖かな天候に恵まれたこの日、くろんど園地の**“アドベンチャートレッキング”**の下見に参加させてもらいました。その時の話です。

土生川（どじょうがわ）沿いに 自然観察を交え歩いていくと、巨石と言うより もっと大きな“ギガ石”がゴロゴロと 谷底に転がっていました。その風景が、ず～っと続いていて・・・・“こんな景色が大阪にあるんや～！！”・・・って、本当にビックリでした。
おまけにタイワンリスも出てきてくれて、とてもラッキーでした！
冬の園地も寒いだけかなあ～って、素人感覚で思っていましたが・・・落葉樹のお陰で 見通しが良くなり、沢山の“森の住人達”と出会えたんです！
アオジ、コゲラ、ソウシチョウ、コガモ、メジロ、ヒヨドリ、シジュウカラ、タラヨウ、アリドオシ、ｅｔｃ,・・・
一年前の私には考えられないくらい多くの“森の生き物達”を知る事が出来ました。
こんなに身近な森の中で、たくましく生きている小さな姿に、感動し、勇気づけられ、そして、人間の責任の重さをずっしりと感じました。
園地のキャンプ場に着いて、武田さんが**『大地の窓』**も面白いよ～！やってみる？と言われ、１８期の６人で代わるがわるに、**『大地の窓』**をやってみました。

・・・・レンジャーの皆さんもご存知ですか？そして体験された事がおありですか？？？

・・・・**『大地の窓』**・・・・

それは、地面に寝転がって、落ち葉で埋めてもらうんです。
もちろん、顔だけは除いて。
最初は勇気がいりました。　だって、落ち葉って汚れてるだろうし、顕微鏡で見ると、小さなダニのような虫がウヨウヨいそうだし・・・（私喘息持ちで埃・ダニアレルギーがきついんですよ～。）
でも１８期の方々が、埋めてもらって気持ち良さそうにしているのを見ているうちに、だんだんと自分もやりたくなってきたんです。自分の奥に眠っていた“子供心”が、ムズムズしだして・・・
埋めてもらうと、落ち葉は、柔らかくって暖かで、優しく包み込んでくれました。
そして心静かに、梢や 木々の枝々や 空の景色を 下から眺めていると、　自分の心や身体が、地面と一体化してきて、地球の一部になったような、土に帰ったような気がしてきました。
自分の身体が“大地”で、　目や心が“窓”でした。

・・・・**『大地の窓』**・・・・

ほんとに、その名のとおりでした。

何十年も生きてくるうちに、“世間体”や“常識”や“大人の考え”や“当たり前の事”や“便利さ”や色んな事で、身体や心が、硬い鱗で覆われてしまった気がします。
今回、**『大地の窓』**を体験して、硬い鱗が剥がれ落ちて、自然体になっていく自分を感じる事が出来ました。・・・**感謝**です。

「自然の大切さ」って、どうゆうこと！？

「生物多様性の大切さ」って、どうゆうこと！？

１６期　　ちはや班　藪野昭宏

ＮＰＯ法人；日本パークレンジャー協会がメデタク発足しました。
その目的は、「自然の大切さ」を伝えること！！・・・・・・
「自然は大切である！」って、ＹＥＳ！　ＹＥＳ　ですよね？

「自然の大切さ」の「大切さ」とは、どういう意味なの？
シンプルに言い換えるなら、「自然が大切である、とゆうこと」を伝える。
といえますかね・・・・・・・

「自然が大切である」ならば、「自然を守り、大切にしようよ！」と感じたり、
アクションが生まれたり・・・・するのかな。

だったら、大切にしなければならない「自然」とは、　「　何なんだ！」
反対語としては、　　人工・人為
広辞苑によると、　　天然のままで、人為が加わらぬさま。
　　人間を含めて，天地間の万物。宇宙。
・・・これでは、少し判り難いかな・・・

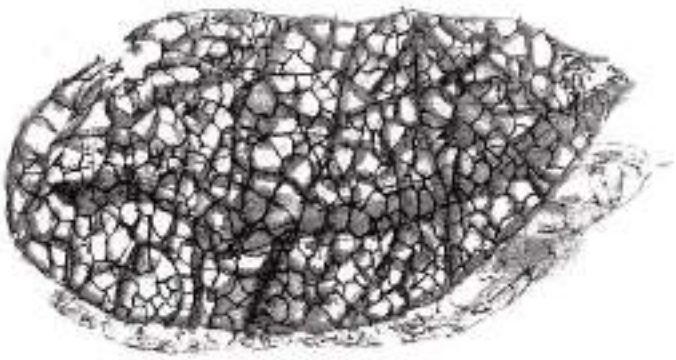
それでは、「自然」という言葉はどんな使い方をされているの？？・・・・・
「自然破壊」　「自然保護」　「自然再生」　「自然環境保全」
「世界自然遺産」　「自然公園」　「金剛山の豊かな自然」・・・・
「人と自然との共生」＊花博のキャッチフレーズ　「人間は自然の一部」　・・・・・・・・・・・・・・
・・・てなことを考えていると、昨年のＣＯＰ１０のこと、「生物多様性」のことが思い出されました。
「生物多様性」とは何か？　いろいろ調べていると、
「生物多様性」の意味の理解、その重要性の理解、が大切だと感じました。
紙面も限られていますので、面白かった「本」と「ネット」を各１点紹介します。　じっくり読み、楽しみ、気づき、お役立てください。

「生物多様性のいまを語る」　研成社　岩槻邦男
「映像で感じる生物多様性」　＜生物多様性普及啓発サイト＞

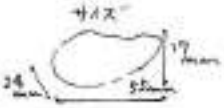
それゆけ、大発見！

18期 泉谷優樹

昨年秋、ほれた園地、しぼうけんの道を歩いている時に見つけました!!
落ち葉に埋もれて、"私を待っててくれた"偶然の出逢い。「見ようとしないと、何も見えない」ということを先輩方から学んだおかげで、少しは草ゆして森のメッセージを受けとれるようになってきた私へのごほうびだったかもしれません。



スカシダワラ（クスサンのまゆ）



中のサナギが見えるから スカシダワラと呼ばれる。非常に繊細で複雑な網目でまもなる。
（密閉にしたり、ほどいたりできる）
↓
外敵からサナギを守る
夏の暑さからサナギを守るための
風通しをよくしてあるの？

クスサン（精蛾）

羽の色は灰色とおびたものと赤褐色をおびたものなど、変化が多い。
日本、東アジア、台湾に分布。
成虫は年1回発生し、9～10月に見られる。
幼虫はクリ、サクラ、ケヤキなどを食べる。冬虫夏草を取るクスノキの葉も食べる。
土中で越冬する。
幼虫の絹糸腺という繭の糸を作りだす器官をとりだして、釣り糸（テグス）を編んだ。
クスサンの出す繊維は、数kgの重さに耐える強度をもっているとのこと。
しかし、幼虫はクリの大害虫で、葉をたべつくし、木を丸坊主にしてしまうこともある。
細いものが金属に生えているもこわい。幼虫はシラガタロウともよばれる。

'10.10.23

"スカシダワラ" 自然の造形のすばらしさを思うと共に、
言葉のセンスに脱帽です。

スカシダワラ、という存在を、"知る楽しみ"、知識の増やし方を教えて下さった先輩方と、森に感謝します。 次は、どんな大発見と出会えるか、
ワクワク、ドキドキ ♡

『森にいってみよう！』

～「センス・オブ・ワンダー」～

ちはや班　片岡 弘

日々、慌ただしく生活していると、自然を感じることが少なくなっています。
休みの日も疲れていると、外に出かけるのが面倒になり、部屋でゴロゴロと過ごしてしまったり…

けれども、

森にいってみると～ 何かを発見できたりします～自然からの贈りものを！

今の季節に行っても何もないと思っているだけで…
そして、身近なところにも、ステキな自然が広がっています。
屋久島の自然もすごく素晴らしかったですが、金剛山の自然もほんと素晴らしいです。

- 新緑の頃のうす緑色の明るい森
- 雨の日にブナの幹に流れる樹幹流
- 夏のひんやりとした木陰で聴く風の音
- 色とりどりに紅葉した山の色
- 霧氷の銀世界　　…などなど

最後に、定番の本ですが～
レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』より一節をご紹介します。

わたしたちの多くは、まわりの世界のほとんどを視覚を通して認識しています。しかし、目にはしていながら、ほんとうには見ていないことも多いのです。見すごしていた美しさに目をひらくひとつの方法は、自分自身に問いかけてみることです。 「もしこれが、いままでに一度も見たことがなかったものだとしたら？もし、これを二度とふたたび見ることができないとしたら？。」

これからも、ステキな自然を通して、「自然の大切さ」を伝えていきたいと思います。

春の七草あれこれ

PR12期　峻　亘

「芹（せり）　薺（なずな）　御形（ごぎょう）　繁縷（はこべら）　仏の座（ほとけざ）　菘（すずな）　蘿蔔（すずしろ）　これぞ七草（ななくさ）」
左大臣・四辻善成「河海抄」1332年

上記の和歌は南北朝時代に左大臣四辻善成が「河海抄」という書物に記述したもので、現在まで七草は正月7日の七草粥として700年近く引き継がれている。新年にあたり、伝統ある春の七草のあれこれを纏めてみた。

1.春の七草の種類

① せり：セリ(セリ科セリ属) 水田湿地に普通にみられる多年草。野菜としても栽培市販されている
② なずな：ナズナ（アブラナ科ナズナ属） ペンペン草とも呼ばれ、どこでも普通に見られる一年草
③ ごぎょう：ハハコグサ(キク科ハハコグサ属) 比較的どこでも普通に見られる越年性一年草
④ はこべら：コハコベ(ナデシコ科ハコベ属)　道ばたや市街地に普通に見られる越年性一年草
⑤ ほとけのざ：コオニタビラコ(キク科ヤブタビラコ属)　水田等に見られる越年性一年草
　　シソ科のホトケノザという野草がありややこしい
⑥ すずな：カブ(アブラナ科) 野菜の蕪
⑦ すずしろ：ダイコン(アブラナ科) 野菜の大根

私の近場でこの七草を一度に見られる場所は枚方市の東部穂谷の里山にある。

2.七草粥の由来

1月7日は、「七草節句」といって、この日に「春の七草」を使った「おかゆ」（七草がゆ）を作って食べると、その1年を無病息災で過ごすことができるといわれている。（元々旧暦の1月7日なので新暦では年毎に1月末から2月後半になるため現在の1月7日では野生の七草をそろえるのは少し難しい）

これは、平安時代の頃から始まったとされており、新年を無事に迎えられた喜びと、新しい1年を無事に過ごしてまた次の新しい年を迎えられるように、農作物（たべもの）や神へのお礼を込めた行事である。

近年では、お正月の豪華な食物や飲酒で疲れた胃腸など内臓をいたわる効果やビタミン不足を補う効果があるといわれて話題になっているが、この風習が始まったころの時代では、バランスの良い大切な食事の一つであったのだろう。

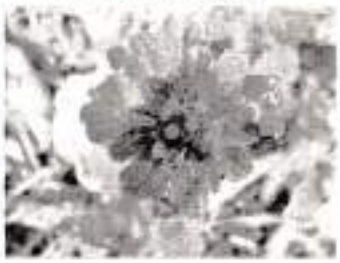
3.仏の座の名前の矛盾

先に述べたように、仏の座はシソ科のホトケノザではなくキク科のコオニタビラコである。長い歴史のある七草の仏の座の名前が何故変わったのかずっと疑問に思い、その理由を調べてみた。シソ科のホトケノザはその葉と葉のつき方が仏像の蓮華座に似ているので仏の座になったと言われている。一方本家のコオニタビラコの葉は田圃の中で放射状に平たくはびこっているのでタビラコ（田平子）と言う名前になったといわれている。これも蓮華座に似ているということではるか昔に仏の座と呼ばれたようである。どちらかといえばシソ科の方が蓮華座に似ているので近代になって名前をとられたのだと推測されるが、和名を決める時、関西の植物学者が東京の植物学者に論争で負けたからだとも聞いた。かくして七草の仏の座はその名を剥奪されて鬼呼ばわりされているのである。

コオニタビラコ（小鬼田平子）の名前であるが、近縁種のオニタビラコ（鬼田平子）の小さいものという意味である。ところが鬼は大きいという意味であるからこれがまたややこしい。和名のつけ方がでたらめで笑ってしまう。

キク科　コオニタビラコ

シソ科　ホトケノザ



パークレンジャーとしての初心をふりかえって

ちはや班／森林整備班　14期　上口博司

この4年間をふりかえってみますと平成18年にパークレンジャーへ申し込みをしました。

それは、自分の子ども達を連れてあっちこっちの公園に行っていたことを思い出します。

その中で、家族とくろんど園地で遊んだことがきっかけでみどり公社のホームページを見るようになりました。

そして、パークレンジャーという活動に気づかされて申し込み、現在に至ります。

正直な話、緑や公園のための活動がしたいとの思いがあったので森林整備が目的でイベントは遠慮したいと思っていました。

それは、自然について分かっていない自分が何を伝えればいいのか？何が伝わるのか？自信がなかったからです。

そんな中、星にも興味があったので当時、人数の少ないちはや班に所属することすることにしました。

そのころ、人数が少なく必然的にヘッドをすることになり、やるからにはイベントに関して勉強することで自信をつけて役割を果たしたいと思うようになりました。

あの頃に比べると幾分、段取りはうまくなってきた感じはあります…

準備だけですが自分で褒めておきます。

人生は、死ぬまで勉強だ！と思っていましたが仕事以外にも勉強したい、しなければいけないと思うものができて、うれしく思います。

それもこれも、分かち合える仲間がおり、フィールドがあり、必然性を求めるＰＲという活動に巡りあえた『縁』に感謝します。

ＮＰＯになってもフィールドのお客様(子ども達)、今までの仲間、これから出会う仲間との『縁』を大切にしていきたいと考えています。

「最近思うこと」

人の集まるイベントがしたい。

もちろん、ただ単に集まればいいとか、
人数をこなす内容のイベントをしたいという意味ではない。
せっかく時間をかけて考えて、下見をして、スタッフも使って、当日の参加者が数人・・・そんなのはもう嫌だ。
自分たちの電車賃はおろか、宣伝、材料、道具代も自分たちで確保できない活動なんて、
ボランティアではなく道楽になってしまう。

『自然の大切さを伝える活動』という思い、
私の言葉で言うと、
「自然に親しむためのきっかけ作り」という思いを入れた内容で集客力のあるイベントを作りたい。

なぜ人か、
1人よりも10人、10人よりも５０人、さらには100人に思いを伝えるほうが拡がりがでる。
「参加者が集まらない=人気が無い」と言われても仕方がない、
私たちは一部のマニアを対象にしているのではない、
ニーズがない催しをしていて、思いを伝えるって言っても・・・
私たちの活動の意味は？
誰のための活動なのか？
しまいには何のために活動をやっているのか、わからなくなってしまう。

宣伝が悪い、天気が悪い、いい内容なのになぁ・・・なんてのはやめて、
本当に(お客さんにも、自然にも、思いにも)いいイベントなら人は集まるはず、
宣伝方法、タイトルやコピー、時間、場所、方法、客層など、
今までのやり方にとらわれず、何か思い切った手を打たなければ、一人よがりの活動になってしまう。
時代の流れに取り残された活動になってしまう。
どれこと「賞味期限切れのパークレンジャー」になってしまわないようにね。

と、最近流行りの・ドラッカー本・を読んで思ったのです。
もちろん私たちはボランティア活動であって、企業ではないのでイコールとはいかないかもしれません。
でも、「もしドラ」の高校野球部の例えもあるように、私たちの活動のマネジメントでも活かせるのでは？

かなざき　ひろたか

どんな自分になりたいんだろう

パークレンジャー。インタープリター。どんな自分になりたいんだろう。

植物や昆虫や、自然に関する知識に長けている人？

「こんちゃん、物知り！」　いや、そうじゃない。どっちかっていうと、一緒にいると、いろんなことに気付かせてくれる、「？」や「！」の気持ちを引き出してくれる、そんな感じ？

「こんちゃんといると、なんでかな？あたりまえのものが楽しく見えてくる」

そんなふうに感じてもらえるとうれしいかも。

でも、そのためにはいろんなことを頑張らなくては。

まず、自分が「？」や「！」の気持ちを持ち続けること。

そして自分が感じた「？」や「！」を同じように他の人にも感じてもらえるように仕掛けたい。「教える」のではなく伝えたい。

どんなふうに仕掛けたらいいだろう。

どんなふうに伝えられるだろう。

まだまだ、道の途中です。

２期　こんちゃん　　西出　明子

花の咲かない
冬の日は
下へ下へと
根を伸ばせ。

やってみせ
言って聞かせて
させてみせ
褒めてやらねば
人は動じ

編集後記

祝 IPWS vol. 40 発行！

よく頑張りました～♪

記念となる編集に
関わり楽しくやらせて
もらいました。
エロ

40号の積み重ね!!
文章で表現することも
インタープリテーションの
一環。ずっと続き
のび大切にしましょう。
冨田

とっても室内があつかったです！
お役に立てたでしょうか？
まんりき

祝40回おつかれさま号！
この記念すべき最終号に立合うことが
でき、これまで続けてこられた方々に
敬意と感謝を申し上げます。
ありがとうございました。
みずたに みどり

届いたこほやほやの
IPWSを持って帰るのも
これで最後になるのかな。
頑張ってきたと思います。
公社のみなさま、
府内の去パークレンジャーの
みなさま、
ありがとうございました。
こんちゃん。

IPWSが今回で実質最終号となります。
パークレンジャー1期生が立ち上げてやっとのことで40号
ある人がこういうのを継続するのには強力が頑張らなければ
ちんな声もの片隅に置いて今まで発行してきました。
by さんちゃん

2011/2/17 発行

表紙　17期 小川亜美